

作業用連絡システム

RP823・RP824・HX823

(親機・回線補償器・子機)

取り付け業者用 工事設定マニュアル

目次

安全上のご注意	表紙裏
準備	1
取り付け方法	2
取り付け場所の注意	2
親機のポールへの取り付け	2
親機の壁への取り付け	3
回線補償器の取り付け	4
回線補償器の設定	5
子機のモード設定スイッチの変更	6
子機の設定	7
チャンネル固定通話方式の設定	7
自動通話方式の設定	10
子機の初期状態	12
親機の設定	12

日本マランツ株式会社

安全上のご注意

「安全上のご注意」では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意・危険を促す内容があることを告げるものです。左図の場合は、感電注意が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。左図の場合は、分解禁止が描かれています。



●記号は使用者の行為を指示することを告げるものです。左図の場合は、一般的な指示が描かれています。

警告

- 指定の電源電圧以外の電圧で使用および設置しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 濡れた手でケーブルを取り付け・取り外ししないでください。感電の原因となります。
- 付属または指定のケーブル以外を使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



- 万一、煙が出ている、変なにおいや音があるなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。
- 万一、この機器を落としたり、破損した場合は、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。



- 不安定な場所や方法で取り付けしないでください。機器はしっかりと固定してください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となります。
- 振動の多い場所に取り付けしないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となります。



- 機器を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 付属のケーブルを加工したり、無理に曲げたり、おじったり、引っ張ったりしないでください。火災・感電の原因となります。
- ケーブルの端子を金属でショートさせないでください。火災・故障の原因となります。
- ケーブルの端子に水滴のついたままこの機器と接続しないでください。火災・故障の原因となります。
- ケーブルが傷んだらご使用にならないでください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- ケーブルは、狭いすき間を通さないでください。ケーブルが傷付き、火災・感電の原因となります。



注意

- 機器が近くのテレビ、電子機器、医療機器等に影響を与えるときは、設置しないでください。
- 無線機の使用が禁止されている場所に、この機器を設置しないでください。



- 機器のアンテナ部分が曇って、目にさらさないようにしてください。
- 設置の際は安全のため接続ケーブルを抜いてください。
- 近くに雷が発生したときは、機器の設置をやめてください。雷によっては、火災・感電・故障の原因となる場合があります。
- ケーブルの端子はしっかりとしめてください。端子がゆるんでいると、この機器の内部に水が入り火災・感電・故障の原因となることがあります。



- 機器の取り付けの際は、必ず付属のワッシャー、ナットおよびボルトを使いしっかりと固定してください。
- 取り外したときのワッシャー、ナットおよびボルトは、乳幼児の手の届かないところで保管してください。



- 湿気やほこりの多い場所、高温になる場所に置かないでください。特に車中には放置しないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- ケーブルを熱源に近づけないでください。ケーブルの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- ケーブルを抜くときは、必ずコネクタを持って抜いてください。ケーブルを引っ張るとケーブルが傷ついて火災・感電の原因となることがあります。



準備

- 作業連絡システムを取り付ける前に以下のものを準備してください。

親機を取り付ける場合	
・自己融着テープ	1巻
・ビニールテープ	1巻
・安定化電源 (12V 2A以上)	1台
回線補償器を取り付ける場合 (数量は回線補償器1台あたりの必要数)	
・自己融着テープ	1巻
・ビニールテープ	1巻
・N型コネクタ	2個
・同軸ケーブル	設置状況に応じた長さ (但し5D-2Vは50m以内)
・アンテナ基台 第一電波工業会 (ダイヤモンドアンテナ) DPK-CR、CRBまたはCLB	1個
・安定化電源 (12V 2A以上)	1台

取り付けを行うのが高所になる場合は、安全衛生法に従って作業を行ってください。

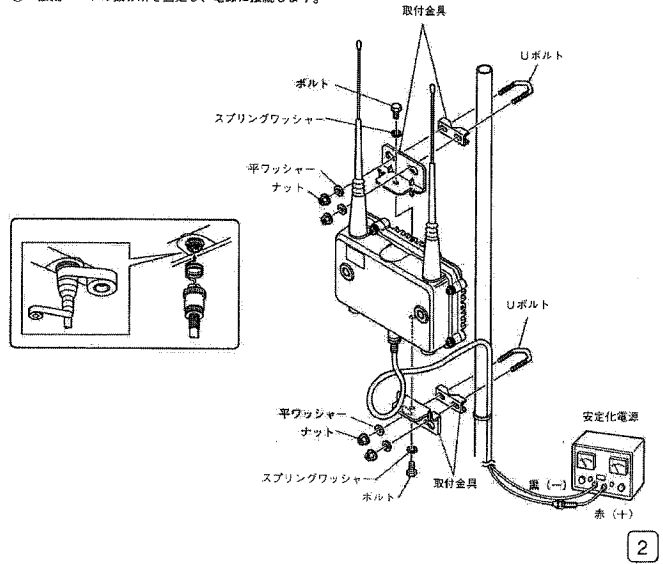
取り付け方法

取り付け場所の注意

- ① 室内では、テレビゲーム機、パソコン、ビデオ、電子レンジ、他の無線機、蛍光灯などの近くに取付けないでください。
- ② 室内に取り付けた場合は、屋外に取り付け時より、通話範囲が狭くなることがあります。
- ③ 屋外では、無線機のアンテナ、電線、鉄塔、鉄筋が入った壁や天井、電車の線路、その他金属やノイズが発生する場所の近くに取付けないでください。
- ④ あらかじめお客様の希望する通話エリアを確認して、取付けてください。また、通話チャンネルに妨害となるような電波が出ていないことを確認してください。

親機のポールへの取り付け

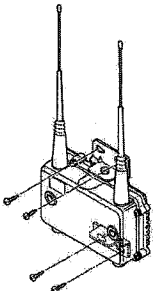
- ① 親機の下2ヶ所に付属のボルトとスプリングワッシャーにて付属のブラケットを取り付けます。
- ② 付属のUボルトを①で取り付けたブラケットに通し、付属のナットでしっかり固定します。
- ③ 接続コードのプラグを親機にしっかりネジ込みます。
- ④ 接続コードのプラグに自己融着テープを巻き、その上からビニールテープを巻きます。テープは親機の根元から巻はじめケーブル部分の約5cmまで巻きます。
- ⑤ 接続コードを輪にしてから、ポールに固定します。
- ⑥ 接続コードの敷き所を固定し、電源に接続します。



2

親機の壁への取り付け

- ① 親機の下2ヶ所に付属のボルトとスプリングワッシャーにて付属のブラケットを取り付けます。
- ② ①で取り付けたブラケットを、付属の本ネジでしっかり固定します。

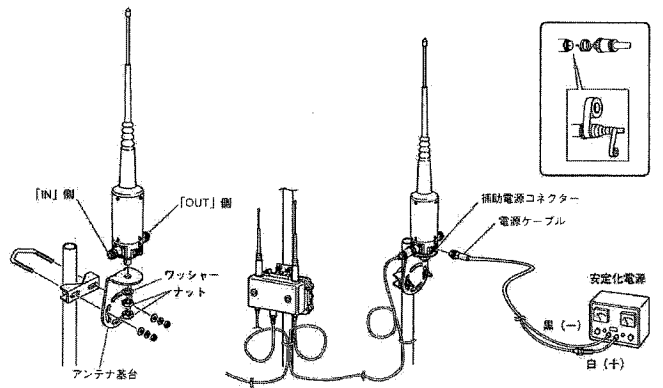


- ③ 接続コードのプラグを親機にネジ込みます。
- ④ 接続コードのプラグに自己融着テープを巻き、その上からビニールテープを巻きます。テープは親機の根元から巻はじめケーブル部分の約5cmまで巻きます。
- ⑤ 接続コードを輪にします。
- ⑥ 接続コードの敷き所を固定し、電源に接続します。

3

回線補償器の取り付け

- ① 設置する状況に応じた長さの同軸ケーブルを用意します。そして、同軸ケーブルの両側にN型コネクタを取り付けます。
 - ② 回線補償器と親機を接続する前に、親機を電源からはずしてください。
 - ③ アンテナ基台の取り付け・取り外しは、アンテナ基台に付属している取扱説明書をよくお読みになって行ってください。
 - ④ 付属のワッシャーとナットでアンテナ基台に回線補償器をしっかりと固定します。
 - ⑤ 同軸ケーブルのプラグを親機側の回線補償器用コネクタにネジ込みます。
(親機に接続する回線補償器が1系統だけのときは、親機正面左側の回線補償器用コネクタを使用します。)
 - ⑥ 同軸ケーブルのもう一方のプラグを回線補償器の「IN」側に接続します。
 - ⑦ 親機側と回線補償器側の同軸ケーブルのプラグに自己融着テープを巻き、その上からビニールテープを巻きます。テープは本体の根元から巻はじめケーブル部分の約5cmまで巻きます。
 - ⑧ 同軸ケーブルを輪にしてから、ポールに固定します。
 - ⑨ 回線補償器の補助電源コネクタのキャップを外し、付属の電源ケーブルを取り付けます。但し、回線補償器側の同軸ケーブルの電圧が7V以上ある場合は、電源ケーブルを取り付ける必要はありません。プラグ部は、⑦と同様に自己融着テープとビニールテープを巻きます。
 - ⑩ 次の回線補償器をつなぐときは、既に設置の済んでいる回線補償器の「OUT」側のキャップを外し、次に設置する回線補償器の「IN」側と同軸ケーブルで接続します。回線補償器の設置方法は上記の手順と同様に行ってください。
- ※ 1系統に接続できる回線補償器は3台までです。



4

回線補償器の設定

- ①準備
- 1. トルクスドライバー (T10H) で回線補償器上部の4本のネジを外します。
- 2. アンテナとケース部分を離します。

注意

ケースを一度開けると、防水機能の保証が出来なくなります。ケースを開けた回線補償器は、屋内でのみ使用してください。

②受信アッテネーターの設定

受信の音声が入ると聞こえるときに、この設定を行ってください。

- 1. 親機と回線補償器の距離に応じて、下表のようにスイッチ(SB02)を設定します。

距離	スイッチ1	スイッチ2	スイッチ3
15mまで	OFF	OFF	ON
25mまで	OFF	ON	ON
50mまで	ON	OFF	OFF

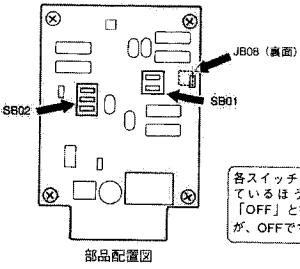
ここでの距離は、SD-2Vの同軸ケーブルをしたときの親機と回線補償器の間を示します。

③アンテナ使用停止の設定

使用状況により、回線補償器のアンテナから電波が出る必要がないときに、この設定を行ってください。

- 1. スイッチ(SB01)の1をONにします。
- 2. コネクタ(JB08)からケーブルを抜きます。

- ④設定が終了したら、ケースにケーブルをはさまないように注意しながらケースを閉めてください。
- ⑤手順①で外したネジを取り付けます。

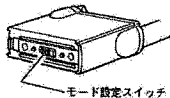


部品配置図

5

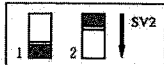
子機のモード設定スイッチの変更

- ① 子機の電源を切り、電池ケースを外します。
- ② 子機の底面にあるモード設定スイッチを変更します。

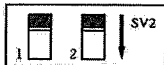


モード設定スイッチ

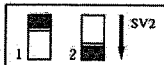
1. 初期状態（チャンネル固定通話方式）



2. CALLキーの設定変更（チャンネル固定通話方式時にCALLキーをPTTスイッチとして設定）



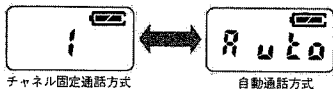
3. 自動通話方式の設定



スイッチ1を変更すると自動通話方式になりません。

- ③ チャンネル固定通話方式と自動通話方式の切り替えは、引き続きに次の設定を行ってください。

- ① ⑥キーとMONIキーを押しながら、電源を入れます。
- ② ⑥キーを押します。
- ③ 電源を切り、再度電源を入れます。これにより、それぞれの通話方式に切り替わります。



チャンネル固定通話方式 自動通話方式

※自動通話方式からチャンネル固定通話方式に変更したときは、親機連続送信の設定は有りになっています。チャンネル固定通話方式に変更後、この設定を無しにする場合は、7、8ページの手順⑥、⑦をご覧になり設定無し（oF）を選んでください。

6

子機の設定

チャンネル固定通話方式の設定

子機番号は、子機ごとに違う番号を設定してください。それ以外の設定は、必要に応じて行ってください。モード設定スイッチが初期状態（チャンネル固定通話方式）であることを確認してから設定を行ってください。

- ① ⑥キーとMONIキーを押しながら、電源を入れます。

子機番号・システム構成・チャンネル番号設定表示になります。



- ② ⑥キーを押して、システム構成番号とチャンネル番号を設定します。

⑥キーを押すたびに、下表の順にシステム構成番号とチャンネル番号は変わります。希望の番号で止めてください。

チャンネル番号表示	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	1	2	3	4	5	6	7	8
システム構成番号表示	8	2																		

⑥キーを押し続けると、連続して番号が変わります。
システムの子機が2台のときシステム構成番号を2にします。
システムの子機が3～4台のとき、システム構成番号を4にします。
システムの子機が5～8台のとき、システム構成番号を8にします。
システム構成番号とチャンネル番号は、全ての子機で同じ設定にしてください。

- ③ ④キーを押して、子機番号を設定します。
子機番号は、子機ごとに違う番号を設定してください。
- ④ ⑥キーを押して、トーン番号設定表示にします。



- ⑤ ④キーを押して、トーン番号および群番号を設定します。
A群は、01から17まで設定できます。B群は、01から16まで設定できます。
トーン番号は、④キーを押す度に次のように変わっていきます。
A-01, A-02, A-03, ..., A-16, A-17, B-01, B-02, ..., B-16, B-17, A-01, ...
トーン番号は、全ての子機で同じ設定にしてください。

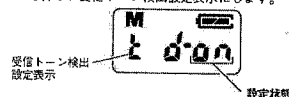
※トーン番号および群番号は、A-01～A-10またはB-01～B-09の中から設定してください。これ以外を設定すると、通話の始めが切れたり、通話の終わりにノイズが出る場合があります。

- ⑥ ⑥キーを押して、親機連続送信設定表示にします。



親機連続送信設定表示 設定状態

- ⑦ ⑥キーを押して、受信トーン検出設定表示にします。



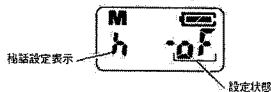
- ⑧ ④キーまたは⑥キーを押して、設定の有り・無しを選択します。
受信トーンの検出を行う場合は、onにします。受信トーンの検出を行わない場合は、oFにします。（通常の設定は、設定有り「on」です。）
※親機にRP823を使用する場合は、onにしてください。親機にトーンを使用していない機器を使用する場合はoFにしてください。

- ⑨ ⑥キーを押して、表示は子機番号・システム構成・チャンネル番号設定表示に戻ります。
- ⑩ 設定を変更する必要がないときは、電源を切ります。設定の変更をするときは、⑥キーを押して、変更を行う設定に進みます。

アドバイス：設定を途中で終了するときは、その時点で⑥キーを押して、その後で電源を切ってください。

- ⑦ ④キーまたは⑥キーを押して、設定の有り・無しを選択します。
設定有りのときは、onにします。設定無しの場合は、oFにします。（通常の設定は、設定無し「oF」です。）
親機連続送信設定は、全ての子機で同じ設定にしてください。
※設定有りの場合は、通話の始めが切れることは低減されます。しかし、子機の電池の持ちが設定無しと比較して約65%になります。
自動通話方式からチャンネル固定通話方式に変更したときは、この設定は有り「on」になっています。必要に応じて設定を変更してください。

- ⑧ ⑥キーを押して、秘話設定表示にします。



秘話設定表示 設定状態

- ⑨ ④キーまたは⑥キーを押して、設定の有り・無しを選択します。
設定有りのときは、onにします。設定無しの場合は、oFにします。（通常の設定は、設定無し「oF」です。）
秘話設定は、全ての子機で同じ設定にしてください。

- ⑩ ⑥キーを押して、マイクゲイン設定表示にします。



マイクゲイン設定表示 マイクゲイン

- ⑪ ④キーを押して、マイクゲインを設定します。（通常の設定は、2です。）
マイクゲインは、④キーを押す度に1、2、3と変わっていきます。1は、-6dBを表わします。2は、0dBを表わします。3は、+6dBを表わします。
※オプションのマイクCMP815、CMP823、CHP820をお使いになるときは、マイクゲイン設定を以下のようにすることを奨めます。

CMP815: 1
CMP823: 2
CHP820: 3

上記の設定は、推奨値です。マイクゲインは周囲の環境に応じて設定してください。

- ⑫ ⑥キーを押して、親機アッテネーター（受信感度）設定表示にします。



親機アッテネーター設定表示 アッテネーターレベル

- ⑬ ④キーを押して、アッテネーター（受信感度）を設定します。（通常の設定は、0です。）
アッテネーターは、④キーを押す度に0、1、2、3と変わっていきます。0は、0dBを表わします。1は、-6dBを表わします。2、3は、使用しません。
※親機と子機の距離が常に10m程度で使われる場合は、設定を1にしてください。混信等に強くなります。

8

9

自動通話方式の設定

モード設定スイッチが自動通話方式であることを確認してから設定を行ってください。

- ① ⑥キーと~~CALL~~キーを押しながら、電源を入れます。

システム構成・チャンネル番号設定表示になります。



- ② ④キーを押して、システム構成番号とチャンネル番号を設定します。

④キーを押すたびに、下表の順にシステム構成番号とチャンネル番号は変わります。希望の番号で止めてください。

チャンネル番号表示	1 2 3 4	5 6 7 8	9 A B C	1 2 3 4 5 6 7 8
システム構成番号表示	8	2	4	

④キーを押し続けると、連続して番号が変わります。

システムの子機が2台のときシステム構成番号を2にします。

同時通話可能な子機が2～3台のとき、システム構成番号を4にします。

同時通話可能な子機が5～7台のとき、システム構成番号を8にします。

システム構成番号とチャンネル番号は、全ての子機で同じ設定にしてください。

- ③ ⑥キーを押して、トーン番号設定表示にします。



- ④ ④キーを押して、トーン番号および群番号を設定します。

A群は、01から17まで設定できます。B群は、01から16まで設定できます。

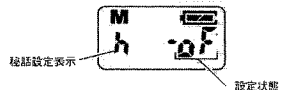
トーン番号は、④キーを押す度に次のように変わっていきます。

A-01, A-02, A-03, ..., A-16, A-17, B-01, B-02, ..., B-15, B-16, A-01, ...

トーン番号は、全ての子機で同じ設定にしてください。

※トーン番号および群番号は、A-01～A-10またはB-01～B-09の中から設定してください。これ以外を設定すると、通話の始めが切れたり、通話の終わりにノイズが出ることがあります。

- ⑤ ⑥キーを押して、秘話設定表示にします。



- ④ ④キーまたは④キーを押して、設定の有り・無しを選択します。

設定有りのときは、onにします。設定無しのときは、oFにします。(通常の設定は、設定無し「oF」です。)

秘話設定は、全ての子機で同じ設定にしてください。

- ⑦ ⑥キーを押して、マイクゲイン設定表示にします。



- ④ ④キーを押して、マイクゲインを設定します。(通常の設定は、2です。)

マイクゲインは、④キーを押す度に1、2、3と変わっていきます。1は、-6dBを表わします。2は、0dBを表わします。3は、+6dBを表わします。

※オプションのマイクCMP815、CMP823、CHP820をお使いになるときは、マイクゲイン設定を以下のようにすることをお奨めします。

CMP815: 1

CMP823: 2

CHP820: 3

上記の設定は、推奨値です。マイクゲインは周囲の環境に応じて設定してください。

- ⑤ ⑥キーを押して、親機アッテネーター（受信感度）設定表示にします。



- ④ ④キーを押して、アッテネーター（受信感度）を設定します。

アッテネーターは、④キーを押す度に0、1、2、3と変わっていきます。0は、0dBを表わします。1は、-6dBを表わします。2、3は、使用しません。

※親機と子機の距離が常に10m程度で使われる場合は、設定を1にしてください。混信等に強くなります。

- ① ⑥キーを押します。表示はシステム構成・チャンネル番号設定表示に戻ります。

- ② 設定を変更する必要がないときは、電源を切ります。設定の変更をするときは、⑥キーを押して、変更を行う設定に進みます。

アドバイス：設定を途中で終了するときは、その時点で⑥キーを押して、その後で電源を切ってください。

10

11

子機の初期状態

子機の初期状態（工場出荷状態）は、次のようになっています。

設定項目	設定状態
通話方式	チャンネル固定通話方式
システム構成番号	8
子機番号	1
トーン番号	A-01
親機連続送信設定	oF
秘話設定	oF
マイクゲイン設定	2
親機アッテネーター設定	0
受信トーン検出	on

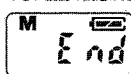
チャンネル固定通話方式では、子機番号は各子機ごとに変更してください。両通話とも、その他は必要に応じて変更してください。

親機の設定

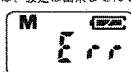
- ① 親機の電源を切ります。
- ② 設定の済んだ子機を1台選びます。
- ③ 子機の⑥キーと~~CALL~~キーを押しながら、電源を入れます。
- ④ 親機の電源を入れます。
- ⑤ 親機の電源が入ってから親機のインジケータが点灯している間に、子機の~~CALL~~キーを押しながら、⑥キーを押します。
設定内容を子機から親機に送ります。



- ⑥ 子機にEndが表示されると、親機の設定は終了です。



Errが表示されたときは、設定は出来ませんでした。再度、親機の電源を切り、手順の④、⑤を行ってください。



- ⑦ 必要に応じて、子機、親機の電源を切ります。

アドバイス

親機の設定を行う際は、親機と子機の距離を3m以上離すか、子機のアンテナを外して行ってください。

12

日本マランツ株式会社

本 社 〒228 神奈川県相模原市相模大野7丁目35番1号
営業本部 〒150 東京都渋谷区恵比寿南1丁目11番9号

お問い合わせは、
最寄りの日本マランツ株式会社、各営業所、サービスセンター
で承っております。付属の全国営業所一覧をご覧ください。